

第 2 回「グローバル・ヘルス関連領域ワークショップ」

「誰も取り残さない UHC」の実現 = アプローチが難しい/社会的脆弱性を抱えたコミュニティと UHC =

ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC : Universal Health Coverage) に関連する NGO の取り組みを、現場の経験から学び合う「グローバル・ヘルス関連領域ワークショップ」第 2 弾。東北タイで HIV/AIDS 啓発事業を展開してきた「シェア = 国際保健協力市民の会」から、差別の対象となったり、社会的脆弱性を抱えているコミュニティとともに取り組む保健事業について、また「国境なき医師団 (MSF) 日本」より、中東・アフリカからイタリアに来る移民・難民向けにイタリア各地で提供している保健・医療サービス提供のプロジェクトについてご報告いただきます。真の「ユニバーサル」を実現するためにどのような取り組みが必要か、参加者の皆さまとともに学びあいます。

日 時 : 2018 年 1 月 18 日 (木) 15 : 00 ~ 17 : 00
主 催 : 公益財団法人ジョイセフ
場 所 : ジョイセフ 10 階セミナールーム <https://www.joicfp.or.jp/jpn/access/>
JR 総武線 市ヶ谷駅より徒歩 5 分、東京メトロ (有楽町線・南北線) 市ヶ谷駅 6 番出口より徒歩 2 分
都営新宿線市ヶ谷駅 1 番出口より徒歩 5 分
定 員 : 30 人 (先着順)
申 込 : 右の申込フォームよりお願いします。 (<https://goo.gl/forms/GUYe1tiicasYw27D2>)
問 合 : アフリカ日本協議会 (稲場、廣内)
Email: kaori.hirouchi@ajf.gr.jp 電話 : 03(3834)6902

西山 美希 (にしやま みき) さん (認定) 特定非営利活動法人 シェア = 国際保健協力市民の会



シェア = 国際保健協力市民の会とは : 健康で平和な世界を全ての人と分かち合う為に、草の根の立場から行動を起こした医師・看護師・学生が中心となり、1983 年に設立された。プライマリ・ヘルスケアのアプローチを尊重し、住民が自らの問題として健康問題に継続して取り組んでいけるよう側面から支援している。海外だけでなく日本国内でも、基本的な保健医療サービスを受けたい環境にいる在日外国人への健康支援も実施している。

プロジェクトの概要 : タイ東北部にて HIV/AIDS のプロジェクトを 1994 年に開始。2008 年にラオス国境沿いの農村地域に活動地を移し、性的マイノリティグループ、ラオスからの移住労働者、セックスワーカー等への HIV 予防啓発と、HIV 陽性者グループ支援活動を行ってきた。活動を通して社会的脆弱性を抱えるコミュニティ同士による学び

あい、助け合いが生まれている。HIV の課題に直面しているコミュニティの啓発活動の促進の意義や課題と展望などをお話したい。

ステファノ・ディ・カルロさん (認定) 特定非営利活動法人 国境なき医師団 (MSF) 日本

※発表は英語で行いますが、質疑応答では逐次のサポートが入ります。

国境なき医師団 (MSF) とは : 紛争や自然災害、貧困などにより命の危機に直面する人々に医療を無償提供する非営利で民間の医療・人道援助団体。「独立・中立・公平」を原則に、人種や政治、宗教にかかわらず援助を提供、1999 年にノーベル平和賞を受賞した。現在は、海外派遣スタッフと現地スタッフの計約 3 万 9000 人が、世界約 70 の国と地域で活動している。

プロジェクトの概要 : イタリアは地中海を渡りヨーロッパを目指す難民・移民にとって最初に上陸する国の一つとなっている。イタリアにたどり着く難民・移民は中東・アフリカの様々な国から来ており、経済的・社会的・文化的背景も多様である。これら難民・移民がイタリアにて医療サービスへのアクセスを持つことができるよう、それぞれの背景や脆弱性を分析し、プロジェクトを形成することが必要となっている。MSF は、このような点を踏まえ、イタリアにて難民・移民を対象にした医療プロジェクトを実施しており、2016 年には約 10,300 件に外来診療、約 1500 件のメンタルヘルスケアを提供した。

